

教員紹介

氏名	高見 秀一	担当科目	刑事訴訟法総合演習、 刑事訴訟実務の基礎、 刑事模擬裁判
略 歴			
出身地	長野県長野市生まれ		
出身大学等	1986年 京都大学法学部卒業		
取得学位	学士（法学）		
職 歴	1986年 司法修習生（40期） 1988年 大阪地方裁判所判事補 1990年 大阪弁護士会登録 2004年 大阪市立大学大学院法学研究科特任教授 2014年 大阪製鐵株式会社社外監査役（現在に至る）		
在外研究歴			
社会貢献等	2012年10月～2013年3月法制審議会刑事法（自動車運転に係る死傷事犯関係）部会委員		
主要研究業績等			
主 著 等	主著： ・「逮捕・勾留・保釈と弁護」（共著）（1996年5月、日本評論社） ・「秘密交通権の確立」（共著）（2001年10月、現代人文社） ・「コンメンタール『公判前整理手続』」（共著）（2005年11月、現代人文社） ・「実践！刑事証人尋問技術－事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」（共著）（2009年4月、現代人文社） ・「実践！刑事証人尋問技術（パート2）」（共著）（2017年9月、現代人文社）		

主論文：

- ・「逮捕状請求書謄本の謄写請求の勧め」（『季刊刑事弁護』4号、1995年10月）
- ・「逮捕・勾留と『情報の不平等』」（『刑法雑誌』35巻2号、1996年3月）
- ・「外国人事件と公判手続－公判のテープ録音と通訳の正確性」（『刑事手続の最前線』、1996年5月、三省堂）
- ・「複雑醜聞」（共著）（『季刊刑事弁護』17号、1999年1月）
- ・「外国人事件と公判」（共著）（『新刑事手続II』、2002年6月、悠々社）
- ・「押収物の還付」（刑事弁護Q&A）（『季刊刑事弁護』41号、2005年1月）
- ・「裁判員制度における事実認定－裁判官と市民の役割－」（日本犯罪学会発行『犯罪学雑誌』73巻3号、2007年6月）
- ・「最高裁判例と事実認定適正化の動き」ケース報告⑥和歌山カレー事件（『季刊刑事弁護』65号、2011年1月）
- ・「知的障がい者の放火冤罪事件－検察官が公訴を取り消し、公訴棄却後に捜査報告書の改ざん発覚」（『季刊労働福祉』132号、2011年9月）
- ・「自己矛盾調書の証人への提示・朗読」（『実務体系 現代の刑事弁護 2 刑事弁護の現代的課題』、2013年9月、第一法規）
- ・「被告人供述の再現資料の提出で得ることができた逆転無罪判決（大阪高裁平成19.9.12）（痴漢）」（『季刊刑事弁護』76号、2013年10月）
- ・「使い勝手のよい反対尋問事項書を作ってみよう（その1～3）」（『季刊刑事弁護』79号～81号、2014年7月～2015年1月）
- ・「法328条及び規則199条の10、11、12の解釈、射程（法律論・一般論）」（『季刊刑事弁護』81号、2015年1月）
- ・「手続二分論的運用の試み」（『法と心理』15巻1号、2015年10月、日本評論社）
- ・「経験則と裁判員裁判」（『季刊刑事弁護』90号、2017年4月）
- ・「実践的反対尋問事項書の作り方」（『新時代の刑事弁護』、2017年9月、成文堂）
- ・「科学的証拠の証拠調べ請求にどのように対応すべきか」（『否認事件の弁護（上）』、2023年4月、現代人文社）
- ・「一審有罪となった事件の控訴審で求められる弁護技術は何か」「一審有罪となった事件を控訴審から受任する場合に留意すべきことは何か」（『否認事件の弁護（下）』、2023年4月、現代人文社）
- ・「反対尋問等における可視化記録媒体の使い方（実践編）」（『取調べの可視化－その理論と実践－』2024年6月、現代人文社）